

今回もダンプ、バックホーなどの重機を借り上げ支援 日本共産党県委員会の要請に県防災局長が回答

日本共産党新潟県委員会は31日、泉田県知事に対して豪雪災害対策についての緊急要望書を提出し、飯沼克英防災局長などと交渉しました。この日の要請行動には、竹島良子県議、いとう誠党上越地区委員長（党上越地区豪雪対策本部長）、長岡市、魚沼市、小千谷市の市議などが参加しました。もちろん、私も一緒です。

緊急要望書に盛り込んだものは、①県災害救助条例、災害救助法の柔軟な運用、②ダンプ、バックホーなどの重機の県借り上げ支援、③空き住宅などの屋根雪処理、④要援護世帯の支援対象を「自らの労力によっては雪の処理ができないすべての世帯」に広げること、⑤交差点、T字路における雪の壁の除去、雪庇落としの早急実施、⑥集落内道路、公民館、神社などの共同施設の除排雪に対する支援、⑦多雪型の消火栓、サクシヨンパイプ付き防火水槽整備をす

めるための支援など10項目です。

注目の災害救助法適用問題について飯沼防災局長は、「法は基本的には現在の自治体を基準に適用するものとなっている。地域差もある中で、合併後10年程度は例外として旧自治体単位で適用するかどうかを判断している。（合併自治体において、合併前の自治体がひとつでも法適用の基準を超えた場合、合併自治体全域に適用をという要望の実現は）なかなかむずかしい。他県では数字での基準がない。家がつぶれない段階で適用しているのはうち（新潟県）だけだ。杓子定規の数値でやっているわけではなく、数%の範囲で今回も柔軟な対応をしている」とのべました。

ダンプ、バックホーなどの重機を県が借り上げて町内会の集落内道路排雪などを支援する制度は18豪雪の時に市民から喜ばれました。この制度は今回の豪雪でもすでに

取り組みを開始したといえます。飯沼局長は「市町村から要望があれば、レンタル業者に頼んで出来るだけ早く対応したい」と回答しました。18豪雪時には、キャタビラがすり減っていて使いにくかった事例もあったと聞いていますので、この点、チェックして借り上げてほしいものです。

県単「冬期集落安全・安心確保対策事業」により配置した小型除雪機の更新については、「更新の時期が来ていることは



一番左がいとう誠委員長。右から二人目は私です。



上越市西部の豪雪地、中ノ俣。民家が雪ですっぱり。1月29日撮影。



シリーズ 上越市内の橋 第59回 御館川橋
「御館川橋」と書いて「おたてがわばし」と読みます。労災病院近くに注ぐ御館川にかかった橋です。御館とは、上杉謙信公が関東管領上杉憲政を迎えた時にその居館として建設した建物。現在は御館公園となっています。謙信公の亡き後、その家督をめぐって謙信の養子である上杉景勝と上杉景虎との間で起こった内乱の場のひとつとなりました。橋長は約24m。竣工は1991年（平成3年）8月。

認識している。速やかに市町村に確認して、至急更新したい希望があれば対応したい。集落の機能維持という観点からも柔軟に対応していきたい」との回答でした。これも朗報です。

空き家住宅などの屋根雪処理では、「全県で60くらいの空き家対策が必要だ。空き家の屋根雪処理は、まずは所有者の責任だ。しかし、所有者がわかっても資力、体力がないということもある。法的な相談は、県でも整備して対応をと考えている。隣接民家が要援護世帯である場合は災害救助法で対応する。すでに取り組んでいる市もある」との回答がありました。

多雪型の消火栓、サクシヨンパイプ（吸水管）付き防火水槽への改善については、「いまのところ、（県として）直接補助する制度を持っていない。大きな課題であるので上乗せできないかなど、国に要望をしていきたい」と前向きでした。また、県内の市町村における多雪型消火栓の設置、吸水管付き防火水槽の設置状況について調査すると約束しました。

春よ来い 第一四〇回 丸ストーブ

おーさぶ、さぶ。冬の寒さが一番きびしい時期に入って、「おーさぶ、さぶ」がすっかり口癖になってしまいました。風呂から上がって、まだ体がぼかぼかしていても、「おーさぶ、さぶ」と言ってしまう。

この寒い時期、暖房で活躍しているのはストーブです。かつては薪をくべるもの、石炭をたくもの、石油を燃やすものなど様々なタイプがありました。最近では石油ファンヒーターが暖房器具の主流となっています。

そういうなかで今年、石油の丸ストーブをあちこちで見かけます。その多くはかなり使いこなししたストーブですが、なかにはどこかにしまっておいたものを再登場させたものもあります。

いま県議選のために毎日のように通っている私たちの党事務所。ここでも事務室、会議室の暖房は石油丸ストーブです。すでに三〇年くらいは使っているでしょう。元々の色は明灰色（シルバー・グレー）だったのだろうと思いますが、長年使用して、すっかりくすみ、薄茶色に近くなっています。

事務所がある建物に着いて事務室に入ると、まず、この丸ストーブにあたります。これは私だけでなく、みんな同じ。そして、両手をストーブの前に出して、「いやー、相変わらずさぶいね」「どうだね、おまんだの方の雪は？」などと会話が始まります。

このストーブは暖房だけでなく、やかんを載せればお湯をわかすこともできます。それだけではありません。鍋を載せれば、ちよつとした料理もできるのです。事務所に勤務している三和区のHさんは、時々、ブリのあらを買ってきては大根などと一緒にグツグツ煮て、おいしい鍋料理を作ってくれます。正に丸ストーブは大活躍です。

この冬、大島区や吉川区の山間部は記録的な大雪となっています。先日、二人がかかりでピラの配布をした際、昼食休憩をとるために立ち寄ったJAえちご上越の川谷店にも石油丸ストーブがありました。

お店の一角にある休憩所。そこに丸ストーブがひとつあるだけなのに、店全体が暖かく感じられます。小さなテレビではちょうど連続ドラマ、「てつぱん」がはじまっています。雪が降り続き、通れるかどうか不安になるような雪崩危険箇所を無事通過した後だったこともあって、ストーブにあたってホッとしました。

そうそう、この間、久しぶりにマルケイのバスに乗った時も丸ストーブに出会いました。この日は義父の二七日（になのか）法要があり、妻は私の車に乗って柏崎の実家へ。私は電車で市役所へ行き、帰りは電車とバスを乗り継いで家に帰りました。

柿崎駅で電車を降りてから村屋行きのバスが発車するまで二〇分もありましたので、それこそ数十年ぶりにバスステーションの待合室に入りました。ドアを開けた瞬間、暖かさがふわーっと伝わってきます。待合室の真ん中に置いてあるのは、ここでも丸ストーブでした。ふと、学生時代の通学時の光景を思い出しました。みんなで楽しいおしゃべりをした冬、たしか、そこにも丸ストーブがありました。待合室には丸ストーブがよく似合います。

丸ストーブを囲むと不思議な力が働きます。囲んだ人たちの顔が見えるのがいいのでしょうか、何となく良い雰囲気生まれるのです。打ち解けて話ははずむし、話の中身もなぜか前向きになります。あつ、また雪が降ってきました。おーさぶ、さぶ。

日本共産党上越地区委員会も豪雪対策本部設置

日本共産党上越地区委員会は1日午後1時、上越地区豪雪対策本部を同地区委員会内に設置しました。これは妙高市、上越市、糸魚川市の市民の安全確保と暮らし・営業を守ることなどが目的です。

対策本部の本部長はいとう誠地区委員長で、副本部長は3市の市議団長である霜鳥栄之妙高市議、新保峰孝糸魚川市議、それに私が務めることになりました。本部の構成員は地区常任委員、3市党議員全員で14人です。

今後の行動ですが、まず地区内の全黨員に豪雪対策本部の設置を周知し、豪雪で苦しんでいる市民のみなさんの願いをつかみ、対策本部に集中するよう求めます。本部としても現地調査などを行い、関係行政機関に市民のみなさんの要望実現を働きかけていきます。豪雪に係る各種相談を受け付けます。

この日の本部会議では、この他、今後の降雪次第では県内外



から除雪ボランティアを募ることも検討しようということになりました。電話による相談は025-543-1890までお願いします。

左の写真は1日、板倉区国川地内で県道三和新井線の除雪状況を視察しているところ。右側が「いとう誠」豪雪対策本部長。撮影したのは私です。

市議会が中山間地域振興基本条例案について 皆様のご意見を聴く会を開催します。

| | |
|---|---|
| 2月16日水/13時 <ul style="list-style-type: none">●桑取地区公民館 第2集会室●大島地区公民館 大会議室 | 2月16日水/16時 <ul style="list-style-type: none">●名立北地域生涯学習センター 集会室●安塚コミュニティプラザ ホール |
| 2月17日木/18時30分 <ul style="list-style-type: none">●上越市福祉交流プラザ 第6会議室●はーとびあ中郷 研修室 | 2月18日金/18時30分 <ul style="list-style-type: none">●牧地区公民館 集会室●吉川コミュニティプラザ 大会議室 |